



イスラム教とインターネット ネット好きなアフガン戦士たちの苦勞

アフガニスタンの首都カブールで、国連事務所に勤めるアフガン人の若い男と親しくなった。彼は最近パソコンを買ったが、インターネットへの接続が難しいのでモデムを買うかどうか迷っているという。

この国の政権は厳格なイスラム教信仰を国民に求める軍政組織「タリバン」である。彼らはインターネットを「欧米の乱れた文化を伝える」、「偶像崇拜を禁止したイスラム教に反する」とみなして禁止している。そのため、カブールからネットに接続するには隣国パキスタンまで国際電話をかける必要があるのだが、その国際回線は全部で5本ほどしかない。

彼の友人はパキスタンの知り合いに頼んでプロバイダーに加入し、回線が空くまで何度も挑戦し、ようやく電話が繋がったがノイズが多くてIDとパスワードを認識してもらえず失敗したという。接続できてもプロバイダーは9600bps止まりで、しかも電話がよく切れるので使いものにならない。アフガニスタンは世界でも珍しいプロバイダーのない国だが、そこでさえこんないじましい努力をしてネットに接続しようとする人がいるとは驚きだった。

ネット接続を試みる彼は熱心なイスラム教徒で、毎日お祈りを欠かさず、ソ連軍との聖戦のときはゲリラ兵士だったという。「ネットを見るのは世界の情報に接するためだ。信仰とは矛盾しない」と語る彼はタリバンの政策が間違っていると思っているようだったが、慎重にも明言は避けた。

インターネットとイスラム教との関係に表と裏があることはパキスタンでも経験した。古代寺院があるガンダーラで私が乗ったオート3輪の若い運転手はタリバンを支持するイスラム主義者で、アフガニスタンのゲリラにも参加した経験を持っていた。イスラム主義を敵視するアメリカが大嫌いで「日本が戦後アメリカに従属しているのは理解できない」と言われた。

彼といろいろ話すうちに、パソコン好きと分かった。だが、マイクロソフト製品のことはよく知っているものの、UNIX系のことは無知だ。「Visual Basicを勉強してネットプログラミングをしたい」と言う。「マイクロソ



フトはアメリカの象徴だろ。嫌じゃないのか」と私が言うと、彼は「使っているのはコピーしたソフトで、マイクロソフトには一銭も入らないから、むしろアメリカに打撃を与えているんだ」と答え、ニヤリとした。

この理論は以前に中東でも聞いたことがあるが大きな間違いだ。イスラム主義はイスラム世界を復興しようとする運動だ。中世のころ、中東は数学や化学の先進地域で、ヨーロッパは中東から科学を学び、ルネサンスを成功させた。イスラム世界がかつてのように復興したいなら、テロや違法コピーに走らず、協力して「イスラムOS」を作り、中世に気前よくヨーロッパ人に科学を教えたように、イスラム世界のGNUプロジェクトを立ち上げるべきではないか。

私がそう言うと、彼は苦笑いして「今のパソコンは英語用で左から右に文字が流れるが、アラビア語は逆だから難しい。あと10年待ってくれ」と答えた。

ネットとイスラム教の関係に表裏があることのマイナスはマレーシアのマハティール首相も指摘している。6月下旬のイスラム諸国会議(OIC)で、彼は「インターネットなど新技術に対して反イスラムというレッテルを貼るのは、政治や宗教の指導者が保身を図るためだ。欧米が持ちかけてくるグローバリゼーションには警戒が必要だが、情報通信革命に対応していかないと、再び植民地時代に逆戻りしてしまう」という趣旨の演説をしている。イスラム式のネット文化が花開き、アメリカ文化のサイトからワンクリックで行けるようになったとき、インターネットはようやく全人類の共有物となるのかもしれない。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp